

令和 2 年 3 月

一 橋 大 学

令和 2 年度一橋大学一般入試（前期日程）第二次試験

出題の意図等 【国語】

## 問題一

現代文の読解力を試す問題である。感情労働の辛いところは不自然な情動を強いられることだと一般的には思われているが、問題の本質は状況にふさわしくない情動、すなわち不適切な情動を抱かなければならない点にあることを述べた文章である。

問い一 内容を理解した上で語彙を的確に選択し、かつ漢字を正確に書く能力をみる。解答例は、A 尊敬 B 聖職者 C 真摯 D 丁寧 E 立派

問い二 この段落の論旨をふまえて、情動の強制を自然に解消できる境地を筆者が「仕事人モード」と呼んでいることを正確に読み取れているかどうかを問う。

問い三 感情労働をめぐる問題の本質は、ある種の情動を抱くことそれ自体に存することが、この段落で示されている。それがどのような情動かは、文章後半を読むことで理解できる。文章全体の論理構造を的確に把握できているかどうかを問う。

問い四 出題範囲だけを読めば、接客業と医師の仕事が対比され、前者が感情労働であるのに対して後者はそうでないと述べられているように見えるが、筆者の真意は両方とも本来は感情労働ではないと論証することにある。接客業は感情労働でないという主張が成立するには、医師の仕事について述べられたことが接客業にも当てはまらなければならない。その議論の流れを的確に推測できているかどうかを問う。

## 問題二

いわゆる近代文語文は、近代の日本社会に深く関係している。そうした文章の読解力を試す問題である。表面的な知識しか持たない者よりも、内発的な知恵を持つ者の方が重要であると主張した文章である。

問い一 語句や文法を理解できているかを問う。解答例は「しかしながら、博学とは結局、敬うに値するものであるかどうか。」

問い二 内容に即して文意を読み取れるかを問う。筆者が表面的な知識しか持たない者よりも内発的な知恵を持つ者の方を重視していることをふまえ、規定の字数で的確にまとめる必要がある。

問い三 筆者の主張を理解できているかを問う。筆者が「学者先生」よりも「才子」を重視していることなどを考慮に入れ、規定の字数で的確にまとめる必要がある。

### 問題三

文章全体の論理を正確に読み取る読解力と、それを二〇〇字で要約する文章表現力とを問うことを意図している。素材となる文章は、産業社会の価値観のなかで若さと老いがそれぞれ正と負という価値をもち、その結果経験値が意味をもたなくなり、そこに社会的存在である人間にとって必要な成熟というものが生まれなくなってしまうということが述べられている。この文章の内容を二〇〇字の解答制限のなかで要約するには、ただ単に論点を列挙するだけでは不十分であり、それらを元の文章の論理構造に沿って再構成したうえで、新たな文章として表現する必要がある。